

日本トレンド・セレクト  
ハイパー・ウェイブ

## 運用報告書(全体版)

第28期(決算日 2023年1月11日)

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。  
「日本トレンド・セレクト」の「ハイパー・ウェイブ」は、2023年1月11日に第28期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。  
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

## 当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/国内/株式/特殊型(ブル・ベア型)
信託期間	1995年1月17日から2025年1月14日までです。
運用方針	信託財産の50%以上短期公社債を組み入れます。株式市場全体の値動きの2倍程度の投資成果をめざすため、原則として株式組入総額と株価指数等先物取引の買建総額の組入合計額が純資産総額に対して約2倍程度になるように調整を行いません。
主要運用対象	短期公社債を主要投資対象とします。なお、わが国の金融商品取引所上場株式に投資することができます。
組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資は行ないません。
分配方針	毎決算時に、利子・配当収入は原則として全額を分配します。売買益からの分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。なお、収益分配金額は1万円当たり10円以上10円単位とします。ただし、分配対象額が1万円当たり10円未満の場合には分配を行いません。

&lt;652016&gt;

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号: 0120-25-1404  
午前9時~午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			日経平均株価		株式先物比率	債券組入比率	純資産額
	(分配落)	税金込み騰落率	期中騰落率	(参考指数)	期中騰落率			
	円	円	%	円 銭	%	%	%	百万円
24期(2019年1月11日)	3,411	0	△26.5	20,359.70	△14.1	198.8	—	12,602
25期(2020年1月14日)	4,839	10	42.2	24,025.17	18.0	198.6	—	9,727
26期(2021年1月12日)	6,470	10	33.9	28,164.34	17.2	200.3	—	9,781
27期(2022年1月11日)	6,403	0	△1.0	28,222.48	0.2	200.5	—	10,137
28期(2023年1月11日)	5,622	0	△12.2	26,446.00	△6.3	200.2	—	9,523

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 株式先物比率は買い建て比率—売り建て比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準価額		日経平均株価 (参考指数)	株式先物比率
	騰落率	騰落率		
(期首) 2022年1月11日	円	%	円 銭	%
1月末	5,890	△8.0	27,001.98	△4.3
2月末	5,659	△11.6	26,526.82	△6.0
3月末	6,292	△1.7	27,821.43	△1.4
4月末	5,842	△8.8	26,847.90	△4.9
5月末	5,990	△6.5	27,279.80	△3.3
6月末	5,608	△12.4	26,393.04	△6.5
7月末	6,188	△3.4	27,801.64	△1.5
8月末	6,333	△1.1	28,091.53	△0.5
9月末	5,456	△14.8	25,937.21	△8.1
10月末	6,128	△4.3	27,587.46	△2.3
11月末	6,331	△1.1	27,968.99	△0.9
12月末	5,486	△14.3	26,094.50	△7.5
(期末) 2023年1月11日	5,622	△12.2	26,446.00	△6.3

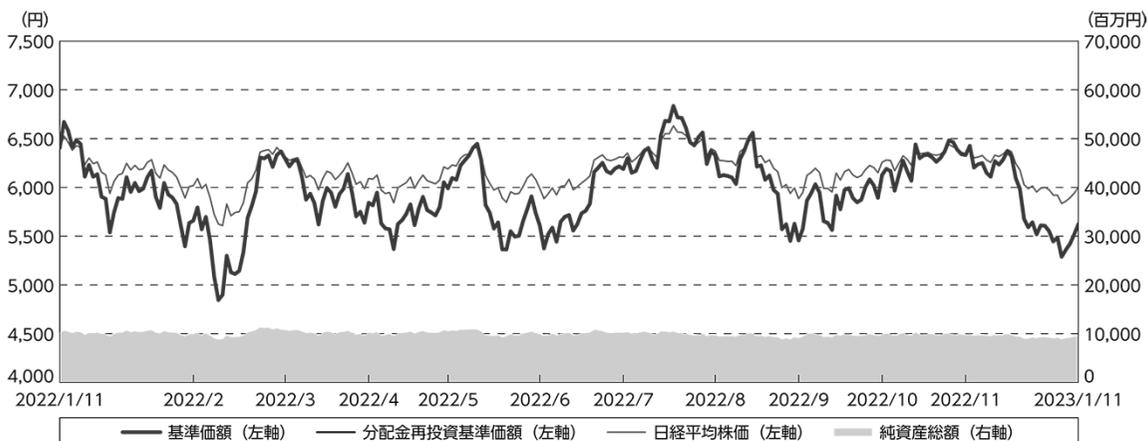
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 株式先物比率は買い建て比率—売り建て比率。

## ○運用経過

(2022年1月12日～2023年1月11日)

## 期中の基準価額等の推移



期首：6,403円

期末：5,622円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率：△12.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および日経平均株価は、期首 (2022年1月11日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 日経平均株価は当ファンドの参考指数です。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、株式市場全体の日々の値動きの2倍程度の投資成果をめざすため、原則として株式組入総額と株価指数等先物取引の買建総額の組入合計額が純資産総額に対して約2倍程度になるように調整を行います。また、短期の国債を信託財産の50%以上組み入れる方針でしたが、当期間については金利環境などを勘案し、金銭信託並びにコール・ローン中心の余裕資金運用としました。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

以下の要因による国内市場での株価の上昇

- ・円安ノアメリカドル高基調を受けて輸出企業の業績改善が見込まれたこと (期間の初め～2022年10月)。
- ・政府が新型コロナウイルスの水際対策で止めていた外国人観光客の受け入れを再開すると表明し、経済活動の正常化が期待されたこと。

- ・米国のISM（全米供給管理協会）製造業景況感指数などの景気指標が市場予想を下回り、一部報道などを背景に米国の金融引き締めペースの鈍化期待が高まったこと。

#### <値下がり要因>

以下の要因による国内市場での株価の下落

- ・ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が継続し、供給混乱を受けたインフレ懸念の高まりから世界景気の悪化が警戒されたこと。
- ・インフレ抑制のため欧米の主要中央銀行による金融引き締めの動きが相ついでいることを受けて、世界経済の減速への警戒感が高まったこと。
- ・日銀が金融政策決定会合において長期金利の許容変動幅の拡大を決定したことを受けて、国内長期金利の上昇による景気の先行き不透明感が広がったこと。

## 投資環境

### （株式市況）

国内株式市場では、株価は期間の初めと比べて下落しました。円安／アメリカドル高基調を受けて輸出企業の業績改善が見込まれたことや、政府が新型コロナウイルスの水際対策で止めていた外国人観光客の受け入れを再開すると表明し経済活動の正常化が期待されたこと、米国のISM製造業景況感指数などの景気指標が市場予想を下回り、一部報道などを背景に米国の金融引き締めペースの鈍化期待が高まったことなどが株価の支援材料となったものの、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が継続し、供給混乱を受けたインフレ懸念の高まりから世界景気の悪化が警戒されたことや、中国で新型コロナウイルスの感染が拡大し中国経済の先行き不透明感が意識されたこと、インフレ抑制のため欧米の主要中央銀行による金融引き締めの動きが相ついでいることを受けて世界経済の減速への警戒感が高まったこと、日銀が金融政策決定会合において長期金利の許容変動幅の拡大を決定したことを受けて、国内長期金利の上昇による景気の先行き不透明感が広がったことなどが株価の重しとなり、株価は下落しました。

### （国内短期公社債市況）

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.01%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.03%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.10%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.12%近辺で期間末を迎えました。

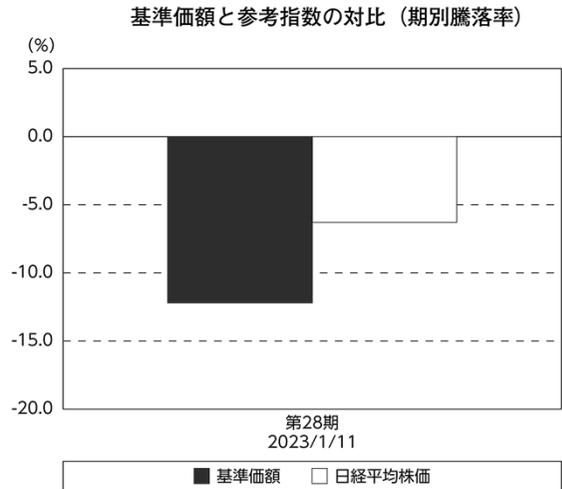
## 当ファンドのポートフォリオ

当ファンドは、株価指数等先物取引の買建総額が純資産総額に対して2倍程度になるように調整し、株式市場全体の日々の値動きの2倍程度の投資成果をめざしました。また、投資有価証券として、短期の国債を信託財産の50%以上組み入れる方針でしたが、当期間については金利環境などを勘案し、金銭信託並びにコール・ローン中心の運用としました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 日経平均株価は当ファンドの参考指数です。

## 分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第28期
	2022年1月12日～ 2023年1月11日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	8,506

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

## ○今後の運用方針

---

これまでの方針を継続し、原則として株価指数等先物取引の買建総額が純資産総額に対して2倍程度になるように調整し、株式市場全体の日々の値動きの2倍程度の投資成果をめざします。また、投資有価証券として短期の国債を信託財産の50%以上組み入れる方針ですが、金利環境などを勘案しながら当面は金銭信託並びにコール・ローン中心の余裕資金運用とします。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年 1 月12日～2023年 1 月11日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 60	% 1.012	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(27)	(0.462)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(26)	(0.440)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	( 7 )	(0.110)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	2	0.039	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 先 物 ・ オ プ シ ョ ン ）	( 2 )	(0.039)	
(c) そ の 他 費 用	0	0.004	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 0 )	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	62	1.055	
期中の平均基準価額は、5,933円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

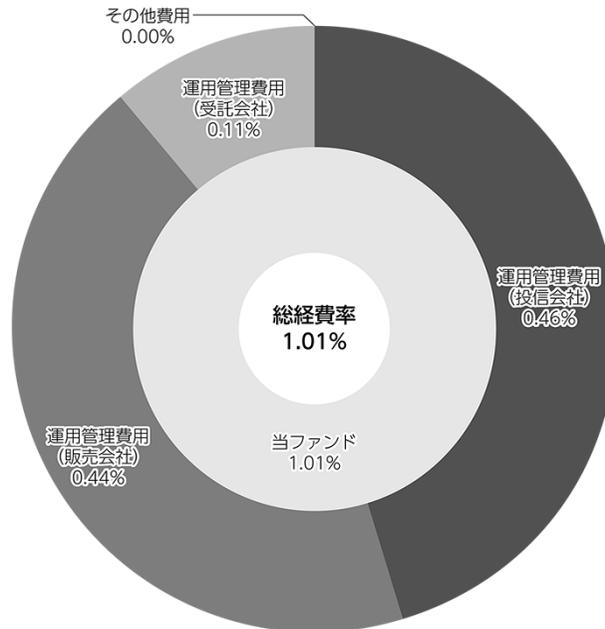
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

## ○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.01%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2022年1月12日～2023年1月11日)

該当事項はございません。

## ○派生商品の取引状況等

(2022年1月12日～2023年1月11日)

## 先物取引の銘柄別取引・残高状況

銘柄別			買 建		売 建		当 期 末 評 価 額		評 損 価 益
			新 規 付 額	決 済 額	新 規 付 額	決 済 額	買 建 額	売 建 額	
国 内	株式先物取引	日経平均225先物	百万円 95,720	百万円 96,203	百万円 —	百万円 —	百万円 19,068	百万円 —	百万円 △975

(注) 金額は受け渡し代金。

## ○利害関係人との取引状況等

(2022年1月12日～2023年1月11日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2022年1月12日～2023年1月11日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2022年1月12日～2023年1月11日)

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2023年1月11日現在)

## 先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別			当期	
			買建額	売建額
国内	株式先物取引	日経平均225先物	百万円 19,068	百万円 -

## ○投資信託財産の構成

(2023年1月11日現在)

項目	期末	
	評価額	比率
コール・ローン等、その他	千円 10,589,092	% 100.0
投資信託財産総額	10,589,092	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年1月11日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	10,581,489,256
コール・ローン等	8,550,151,256
差入委託証拠金	2,031,338,000
(B) 負債	1,058,064,586
未払金	975,015,100
未払解約金	33,168,504
未払信託報酬	49,659,497
未払利息	5,633
その他未払費用	215,852
(C) 純資産総額(A-B)	9,523,424,670
元本	16,940,452,497
次期繰越損益金	△ 7,417,027,827
(D) 受益権総口数	16,940,452,497口
1万口当たり基準価額(C/D)	5,622円

(注) 当ファンドの期首元本額は15,832,600,316円、期中追加設定元本額は15,017,913,361円、期中一部解約元本額は13,910,061,180円です。

(注) 1口当たり純資産額は0.5622円です。

(注) 2023年1月11日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は7,417,027,827円です。

## ○損益の状況 (2022年1月12日～2023年1月11日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 1,922,952
受取利息	6,590
支払利息	△ 1,929,542
(B) 有価証券売買損益	4,669
売買益	△ 2,001
売買損	6,670
(C) 先物取引等取引損益	△ 628,194,589
取引益	3,035,806,266
取引損	△ 3,664,000,855
(D) 信託報酬等	△ 101,067,894
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	△ 731,180,766
(F) 前期繰越損益金	475,267,793
(G) 追加信託差損益金	△ 7,161,114,854
(配当等相当額)	( 13,806,875,981)
(売買損益相当額)	(△20,967,990,835)
(H) 計(E+F+G)	△ 7,417,027,827
(I) 収益分配金	0
次期繰越損益金(H+I)	△ 7,417,027,827
追加信託差損益金	△ 7,161,114,854
(配当等相当額)	( 13,806,875,981)
(売買損益相当額)	(△20,967,990,835)
分配準備積立金	603,921,817
繰越損益金	△ 859,834,790

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(D)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程(2022年1月12日～2023年1月11日)は以下の通りです。

項 目	2022年1月12日～ 2023年1月11日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	13,806,875,981円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	603,921,817円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	14,410,797,798円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	8,506円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

## ○分配金のお知らせ

---

1 万口当たり分配金 (税込み)	0円
------------------	----

## ○お知らせ

---

### 約款変更について

2022年1月12日から2023年1月11日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。